

おしすと通信



子どものSOS ～キャッチしていますか～

[子どもの権利救済委員からのメッセージ]

今また、いじめが背景事情と思われる子どもの自殺が大きな社会問題となっています。

いじめは、いじめられる側だけでなく、いじめる側の心にも深い傷を残すといわれています。だから、いじめをやめさせることは、いじめられている側を救うだけでなく、いじめている側が背負い続ける罪という不幸をくい止めることにもなるのです。また、いじめが原因で不登校になる場合もあり、我が子がいじめにあっていることに気づくのも不登校がきっかけというケースも少なくありません。

例えば家庭内で下記のような変化をキャッチしたら、それはSOSのサインかもしれません。

いじめのサイン(例)

●身体の変化

ケガ、あざ、身体の不調を訴える

●行動の変化

口数が減る、落ち着きがない、忘れ物が増える、登校をしづる

●持ち物やお金の使い方の変化

持ち物が壊れたりなくなったりする、家庭からお金を持ち出す、衣服の汚れや傷みが目立つ

●友人関係の変化

学校や友だちの話をさける、遊ばなくなる、携帯メールにおびえる・逆に電源を切るなど無関心になる



子どもに
いじめを告白
されたら

1. 興奮・詰問せずまずは冷静に聴く
2. 子どもの気持ちを尊重する
3. なにがあっても、子どもを守る
4. 深刻な場合は保護者の出番
5. 学校や相談機関などに相談する

不登校(初期)のサイン(例)

●身体や行動の変化

起床時間が遅くなる、からだの不調を訴える、欠席・遅刻が多くなる、表情が沈み覇気がない

●友人関係の変化

友だちと遊ばなくなる

●学習面の変化

成績が低下する、家庭での学習をしなくなる

●家庭生活の変化

夜遅くまでゲームやDVD鑑賞等に熱中する、外出が減り自分の部屋で過ごす時間が多くなる

「親に言ったら大騒ぎになるかも?」「心配をかけたくない」など、子どもがいじめを告白するには大変な勇気が必要です。「あーやっぱり話さなければよかった」…とならないように、まずは一人で耐えてきたお子さんの辛かった気持ちを受け止めてあげましょう。そのうえで、子どもを必ず守るという強い姿勢が大切です。解決が難しい場合は、第三者に相談することも一案です。

子どもアシストセンターでは、保護者の方や子ども本人から、相談して「気持ちが楽になった」「一歩前に踏み出すきっかけになった」など、解決や改善に気持ちが切り替わったという意見をたくさんいただいています。希望があれば学校などとの間に入って話し合ったりすることもあります。

いじめに限らず、どんな小さなことでも結構です。一人で悩まないでまずは相談してみませんか。